

1. 報告要旨

東アジア環境交流プロジェクトの3年目となった2013年度は、今まで行ってきた地域間交流から次のステップに進み、より多くの具体的な連携を生み出すために、交流と協働を促進する場として、2014年3月8日～10日に上海で「東アジア地球市民村」を開催した。

「東アジア地域は国を超えた解決努力を必要とする環境分野の共通課題は山積し、いまこそ市民力が試されている」といった私たちの呼びかけに対して、たくさんの方が賛同を表明してくれた。「準備ゼロ回」にも関わらず、地球市民村は大盛況のなか、中日台から延べ350名以上の参加者が集まり、地元上海および周辺地域からの参加者ももっとも多かったが、雲南、福建、北京など遠方から来た方も少なくなかった。

初めての試みである今回のイベントは、日中の協力者から構成するネットワークによって企画を進められていて、開催時の運営は30名以上のボランティアスタッフの協力の下で行われていた。準備期間中に、韓国や台湾の関係者に呼びかけをするために海外へ出向き、たくさんの方を訪問し思いを直に伝えた。最終的に、会場に来られたのは、日本15名、台湾3名。韓国からの参加者は諸事情で来られなかったが、今回は企画段階から参画することを約束した。

初日の3月8日は、200人以上の来場者が集まった。開会式と「半農半X」を提唱する塩見直紀さんの基調講演から始まり、午前から午後にかけて、自然教育、農業と食、廃棄物、エコ建築、エコツアーなど様々な分野から参加するゲストたちによるスピーチやワークショップが三箇所ですべて同時進行された。会場となった市民センターの一階には展示会を開催し、出展団体のブースやゲストから集めた推薦書を展示するコーナー、音楽パフォーマンスができるステージを設けた。子どものために絵本の朗読会も実施し、場外で設置した自然食品の青空市場では、たくさんの地域住民が集まってきた。夕方に、約100人の参加者は上海近郊にあるエコビレッジの岑ト村を訪れ、農業や自然教育をここで行う都会からの移住者と交流し、キャンプファイヤーを囲んで、歌と踊りで感情を交流する時間を過ごした。

3月9日は、中野民夫さんがファシリテーションを務めたワークショップで、100人の参加者の間でいろんな対話をした。午前中は「ワールド・カフェ」において全員が「自分が関心を寄せる環境問題」や「東アジアの環境問題」、「自分たちにできること」について意見を述べ合った。午後のオープンスペースでは、参加者が25以上のテーマを提起し、グループで議論を行った。「自然教育」、「有機農業」、「食育」、「エコライフ」などが焦点となっていた。最後に、全体で意見を交換し、各グループが出した解決案が書かれた紙が壁に貼り付けられて、みんなで共有した。

3月10日は、30人が参加するスタディツアーを実施し、崇明島で自然農を実践する若者と交流した。日本側の参加者が「グローバル経済に、猛烈に経済発展する中国社会に翻弄されずに生きようとする東アジアの若い活力を見ました」とコメントした。

開催後も、一部の参加者はSNSでいろんな主旨のグループを結成し議論を続けていて、講演会や訪問ツアーなど、参加者の間でいろんな形の連携が生まれたようだ。

2. 成果物

1. [「自然共生型社会を目指す：東アジア地球市民村 2014年 in 上海」\(イベント\)メディア報道\(有機會 HP\)](#)
2. [メディア報道\(上海社会組織 HP\)](#)
3. [「中央集権式発展に反対：星川淳さんのインタビュー」\(復旦商業知識 HP\)](#)
4. [「Xを探す：塩見直紀さんのインタビュー」\(復旦商業知識 HP\)](#)
5. [「すばらしい空間を醸造し、すばらしい明日を醸造する：中国人参加者からの寄稿」\(CS ネット HP\)](#)
6. [参加者感想by大友映男\(CS ネット HP\)](#)

7. [「キラキラした目を持つ青年たち:参加者感想by高木晴光」\(CS ネット HP\)](#)
8. [活動報告\(CS ネット HP\)](#)
9. [「上海で友情を育む 東アジアの明るい未来」ニュースレター平和の種\(2014.5.18\)](#)